BIOS の Correctable ECC 閾値の確認方法

- 1) 任意の CVM にログインして以下フォルダに移動します。
 nutanix@CVM\$ cd /home/nutanix/foundation/lib/bin/smcsumtool/
- 2) 以下コマンドで生成された/tmp/dump.log を取得します。

AOS 5.0.x 及び以前のバージョン:

nutanix@CVM\$./sum -i </PMI IP> -u </PMI ADMIN> -p </PMI Password> -c

GetCurrentBiosCfgTextfile --file /tmp/dump.log

AOS 5.1.x 及び以降のバージョン:

nutanix@CVM\$./sum -i </PMI IP> -u </PMI ADMIN> -p </PMI Password> -c GetCurrentBiosCfg --file /tmp/dump.log

<IPMI IP>: Correctable ECC エラーが発生したノードの IPMI IP アドレス

<IPMI ADMIN>: IPMI の ADMIN ユーザ

<IPMI PASSWORD>: ADMIN のパスワード

※CVM から以下コマンドで IPMI IP アドレスが確認できます。 nutanix@CVM\$ ncli host ls | egrep "::|Name|Address|Block"

3) 以下コマンドで現在 BIOS 上の Correctable ECC 閾値を確認します。

nutanix@CVM\$ cat /tmp/dump.log | grep "Memory Corr¥."

実行例:

nutanix@CVM\$ cat /tmp/dump.log | grep "Memory Corr\."

Memory Corr. Error Threshold=**000A** // Please enter the value in 4 hexadecimal digits. Default value is

<<<000A>>>

Threshold が 000A (16 進数) で表示されて、10 進数に変換すると 10 になります。 000A である場合は、0200 (10 進数の 512) へ変更する必要があります。

BIOS の Correctable ECC 閾値の変更方法

※現在推奨されるのは BIOS 本体のアップグレードになります。最新のバージョンでは Correctable ECC 閾値は最初から適切な値が設定されております。

二つの方法ともノード再起動が発生します。

方法 1) smcsumtool コマンド

以下の機種とバージョンを満たす必要があります。

Platform Types in the cluster	BIOS version	AOS version
G4(Haswell)	1.5d(DR-T), 1.5e(DR-U)	AOS 4.5+
G5(Broadwell)	1.32	AOS 4.6.4+
G4(Haswell) + G5(Broadwell)	1.5d(DR-T), 1.5e(DR-U) for G4 and 1.32 for G5	AOS 4.6.4+

- 1) 任意の CVM にログインしてから以下フォルダに移動します。 nutanix@CVM\$ cd foundation/lib/bin/smcsumtool/
- 2) ECC 設定ファイルをダウンロードします。

nutanix@CVM\$ wget https://s3.amazonaws.com/ntnx-sre/ISB-019/ecc512.cfg ※インターネット接続がない環境でしたら先に上記 ecc512.cfg ファイルをダウンロードして WinSCP などで CVM の foundation/lib/bin/smcsumtool/にコピーしてください。

- 3) 以下コマンドでクラスター内のすべてのホストの IPMI アドレスをファイルに保存します。
 nutanix@CVM\$ ncli host ls | grep -i ipmi | awk '{print \$4}'>ipmi_ip.txt
- 4) IPMI アドレスが問題なく保存できているか確認します。 nutanix@CVM\$ cat ipmi_ip.txt

実行例:

nutanix@CVM\$ cat ipmi_ip.txt

..*.194

..*.195

..*.199

5) ECC 設定ファイルを適用します。

nutanix@CVM\$./sum -l ipmi_ip.txt -u <*IPMI ADMIN>* -p <*IPMI Password>* -c changebioscfg --file ecc512.cfg

```
実行例:
nutanix@CVM$ ./sum -l ipmi_ip.txt -u ADMIN -p ADMIN -c changebioscfg --file ecc512.cfg
Supermicro Update Manager (for UEFI BIOS) 1.6.0 (2016/01/28) (x86_64)
Copyright@2016 Super Micro Computer, Inc. All rights reserved
Start to do changebioscfg for systems listed in ipmi_ip.txt
Log file created:
ipmi_ip.txt.log_2017-03-21_13-35-28_25118
Press ENTER to see the current execution status:
         -----Final Results-----
Executed Command:
./sum -l ipmi_ip.txt -u ADMIN -p ***** -c changebioscfg --file ecc512.cfg
Summary:
  4 EXECUTIONS ( WAITING: 0 RUNNING: 0 SUCCESS: 4 FAILED: 0 )
Status List:
    System Name | Elapsed | Status | Exit Code
   *.*.*.79 | 00:00:09 | SUCCESS |
                                       0
   *.*.*.80 | 00:00:09 | SUCCESS |
                                       0
   *.*.*.81 | 00:00:09 | SUCCESS |
                                       0
   *.*.*.82 | 00:00:09 | SUCCESS |
                                       0
Summary:
  4 EXECUTIONS ( WAITING: 0 RUNNING: 0 SUCCESS: 4 FAILED: 0 )
```

6) ecc512.cfg ファイルを削除します。 nutanix@CVM\$ rm -rf ./ecc512.cfg

7) 設定を変更したホストを一台ずつ再起動します。

参考情報: https://www.nutanix.com/content/dam/nutanix/ja/documents/support/doc-node-

restart.pdf

8) "BIOS の Correctable ECC 閾値の確認"の手順にしたがって、閾値が 0200(10 進数の 512)に変更されたことを確認します。

方法 2) BIOS

ノードを再起動する必要がありますので、複数のノードで Corrtable ECC 閾値を変更する場合、各ノード 再起動する前に以下の手順で冗長性と耐障害性を確認します。

事前確認:

- 1) クラスターが 1 ノードダウンを許容できるか(全ての項目が 1)確認します。 nutanix@CVM\$ ncli cluster get-domain-fault-tolerance-status type=node
- 2) 新規アラートがないか確認します。
 nutanix@CVM\$ ncli alert ls | grep -E 'Mes|Cre'; date

 ※1)と 2)は Prism の Data Resiliency と Alert からも確認できます。
- 3) クラスターのノード数を表示させて、4)と5)の出力結果と同じノード数であるか確認します。 nutanix@CVM\$ symips | wc -w
- 4) 全てサービスが UP になっていることを確認します。 nutanix@CVM\$ cluster status | grep -v UP
- 5) 全てのノードが Up と Normal 状態であることを確認します。 nutanix@CVM\$ nodetool -h localhost ring
- 6) 192.168.5.2 へのルートが**ない**ことを確認します。

AHV: nutanix@CVM\$ allssh 'ssh root@192.168.5.1 netstat -nr' | grep --color 192.168.5.2

ESXi: nutanix@CVM\$ allssh 'ssh root@192.168.5.1 esxcfg-route -l' | grep --color 192.168.5.2

Hyper-V: nutanix@CVM\$ allssh 'winsh netstat -nr' | grep -w --color 192.168.5.2

実行例:

nutanix@CVM\$ allssh 'ssh root@192.168.5.1 netstat -nr' | grep --color 192.168.5.2

Connection to 10.148.106.11 closed.

Connection to 10.148.106.12 closed.

Connection to 10.148.106.13 closed.

Connection to 10.148.106.14 closed.

Corrtable ECC 閾値変更:

- 1) 対象ホストから CVM 以外の User VM をシャットダウンするか、他のホストに移動します。
- 2) ホストをメンテナンスモードにします。

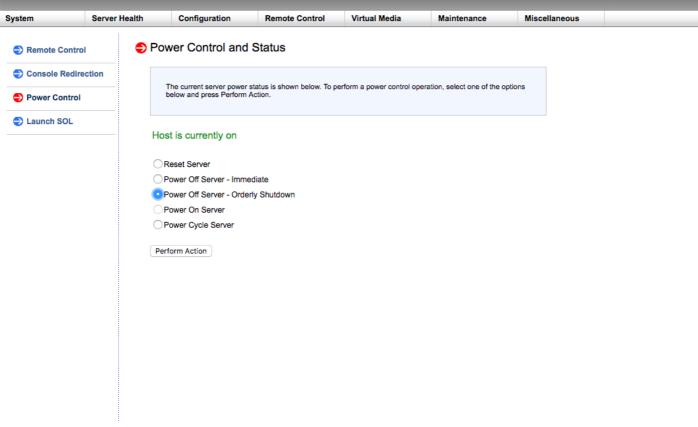
ESXi: vSphere Web Client からホストを右クリックして、 "メンテナンスモードへの切り替え"を選択します。

AHV: SSH で CVM にログインして、下記コマンドでホスト一覧を出力します nutanix@cvm\$ acli host.list シャットダウン対象ホストの Hypervisor の IP アドレス(Hypervisor Address)を控えます。 下記コマンドでシャットダウン対象ホストをメンテナンスモードに移行します。 nutanix@cvm\$ acli host.enter_maintenance_mode wait=true

Hyper-V: メンテナンスモードに移行不要

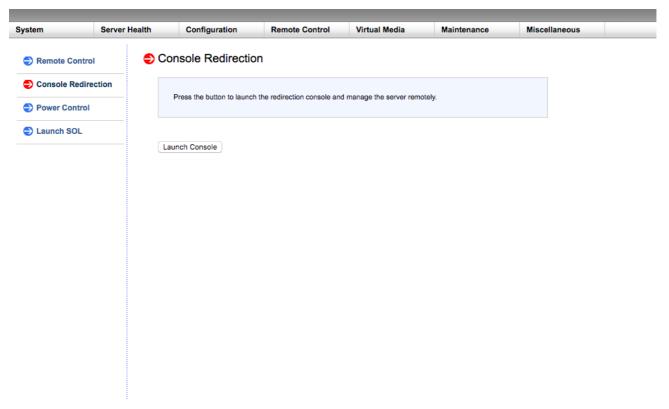
- 3) CVM にログインして、CVM をシャットダウンします。 nutanix@CVM\$ cvm shutdown -P now
- 4) ホストの IPMI にログインしてホストを停止します。

Remote Control → Power Control → Power Off Server - Orderly Shutdown を選択して、Perform Action をクリックして、"Host is currently off"が出るまで待ちます。



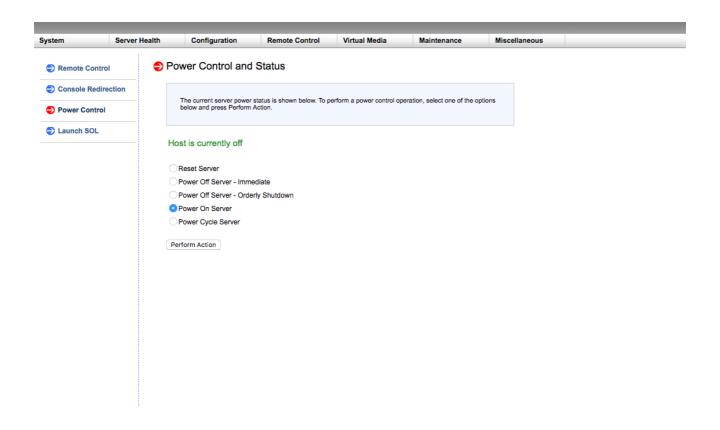
5) IPMI コンソールを立ち上げます。

Remote Control → Console Redirection → Launch Console



6) ホストを起動します。

Remote Control → Power Control → "Host is currently off"を確認 Power On Server を選択して、Perform Action をクリックします。



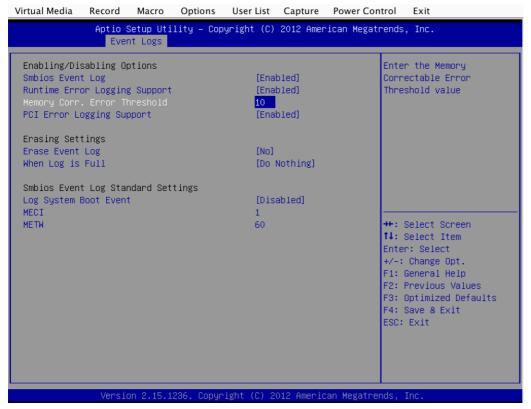
7) IPMI コンソールからホスト起動状況を確認します。

Nutanix ロゴが出ましたら、画面の下に Entering Setup…が出るまで Delete キーを連打します。



8) BIOS で以下の項目に移動します。

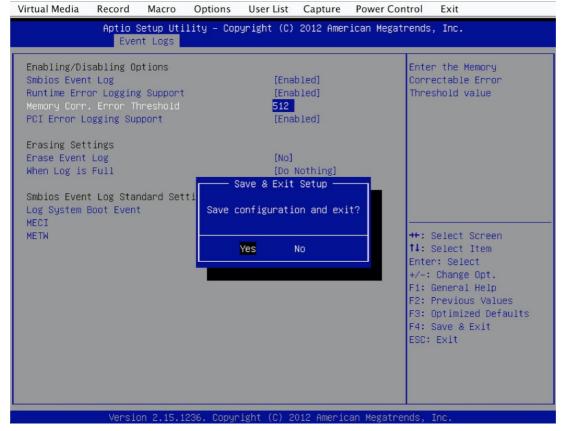
Event Logs \rightarrow Change SMBIOS Event Log Settings \rightarrow Memory Corr. Error Threshold で Enter キーを打ちます。



9) 閾値を 10 から 512 へ変更します。



10) F4 キーを押して、Save&Exit を選択して、Save configuration and exit?で Yes を選択し、Enter キーを打って保存します。ホストが自動的に再起動されます。



11) ホストが起動できましたら、メンテナンスモードを解除し CVM を起動します。(5 分ほど待つ) 参考情報:

https://www.nutanix.com/content/dam/nutanix/ja/documents/support/doc-node-restart.pdf

12) "事前確認"に戻して Data Resiliency とサービスが回復したか確認してから次のホストに進みます。

参考情報

Changing Memory Correctable Error Threshold in BIOS https://portal.nutanix.com/kb/4256

ノードとクラスターの停止・起動手順:

https://www.nutanix.com/content/dam/nutanix/ja/documents/support/doc-node-restart.pdf

IPMI Web UI からホストのコンソールに接続する:

https://www.nutanix.com/content/dam/nutanix/ja/documents/support/doc-impi-host-console.pdf

©2017 Nutanix, Inc. All rights reserved. NutanixはNutanix, Inc.の米国その他の国における商標です。 その他の社名、製品名、ロゴ等は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。本書に記載した情報は、予告なしに変更される場合があります。